

2020年1月吉日

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

神奈川県初、座間総合病院にて AI（人工知能）問診を導入

～開発会社との共同改良を通じ、医師の働き方改革を推進～

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（以下 JMA、理事長：谷口 佳浩、本部：神奈川県海老名市）は、1月6日より座間総合病院（神奈川県座間市）にて、Ubie 株式会社（ユビー株式会社、共同代表取締役：阿部 吉倫・久保 恒太、以下 Ubie 社）が開発した、AI（人工知能）を活用する問診システムを導入しました。外来を受診する初診の患者様に受付窓口にてタブレット端末をお渡しし、従来の紙の問診票に代わって事前問診を行うもので、神奈川県では初めての導入事例となります。



【AI 問診システム導入の目的および概要】

今年3月の厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」で取りまとめられた報告書により、2024年4月以降、研修医や医師の時間外労働に対して上限規制が適用されるなど、医師の働き方改革の遂行が急務となっております。同報告書では、働き方改革の実現に向け、医療従事者の意識改革を行うとともに、ICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化や勤務環境改善、とりわけ業務の移管（タスク・シフティング）や業務の共同化（タスク・シェアリング）が重要であると示されています。

このような環境の中、JMA では座間総合病院にて Ubie 社の開発した「AI 問診 Ubie（ユビー）」を導入しました。複数の現役医師を含むチームが開発した問診に特化したシステムで、約5万件の論文から抽出されたデータに基づき、AI が患者さま一人ひとりの症状や地域・年代に合わせた質問を自動で分析・生成。患者様がタブレット画面に表示される質問に沿って回答を選択すると、AI が電子カルテに記載する問診 所見を自動で作成します。

AI 問診の導入により、従来の紙問診での限られた事前問診情報に比べ、より詳しく患者様の状態や症状を把握できるようになります。加えて、これらの事前問診情報を医療の専門用語に変換・翻訳された形で即時に電子カルテに記録することが可能です。

JMA では、まず座間総合病院の一般内科・総合診療科にて導入を開始し、今後の検証を経て運用を拡大していく予定です。また、問診システムの運用で得られた知見や改善点などを Ubie 社と共有し合うことで密に連携する開発協力関係を構築しており、先進的なサービスの共同改良を通じて、医師や看護師の働き方改革の推進に貢献してまいります。

◆社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスについて

神奈川県の中核病院(352 床)、海老名総合病院(479 床)、および埼玉県の中核病院(173 床)といった、救急医療を提供する地域の中核病院のほか、診療所や在宅支援等の各機能の施設を有し、切れ目のない医療・介護サービスを提供しています。

◆座間総合病院について

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスが、米軍座間キャンプ返還地に 2016 年 4 月に開院し、座間市内の二次救急の病院として、開院前まで 20% 台だった市内の救急搬送率を 44% 台まで改善させる中心的役割を果たしています (2018 年度実績)。

また、フロア毎に急性期・回復期・医療療養・地域包括ケアと異なった機能の病床を有する「ケアミックス病院」として、病院内で救急的な治療～リハビリテーションまでワンストップで対応できる機能を持っています。



◆Ubie 株式会社について

「テクノロジーで人々を適切な医療に案内する」ことを目指し、医師とエンジニアが 2017 年 5 月に創業したヘルステック・スタートアップです。AI での病名予測をコア技術とし、医療現場の業務効率化を図る AI 問診プロダクト「AI 問診 Ubie」を開発・提供しています。医療情報格差をなくし、誰もが自分にあった医療にアクセスできる社会づくりを進めてまいります。

<本件に関するお問い合わせ先>

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
経営企画本部 事業開発推進部 広報企画担当
(TEL) 046-235-0765 (FAX) 046-233-1613
(Mail) jma_pr@jin-ai.or.jp (URL) <https://www.jinai.jp/>